

エネルギー設備と保安

日本エネルギー設備保安推進協会機関誌

第5号

2020



一般社団法人

日本エネルギー設備保安推進協会

マンションに居住の皆さまへ

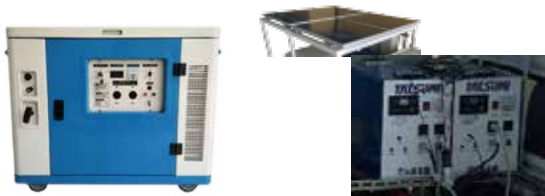


台風、浸水等による停電で
居住者用マンションの
エレベーター・ポンプは動きますか？

災害時には、**でんまる君** 電源装置 で安心!!

分散型・自家消費のBCP対策の決定版!!

集会所用



LP ガス発電機 5kVA ソーラー蓄電セット 1kWh

環境にやさしく、分散型電源で災害時も安心!!
ハイブリッド発電機もあります! (5kVA)
集会所や小規模施設の緊急時の電源として、
既に活用いただいています。



江東区・東砂葛西橋町会様で導入頂きました。

集合住宅用



LP ガス発電機 20kVA 蓄電池 10kWh

エレベーター・圧送ポンプ・非常用照明・
コンセントに非常時供給します。
小型軽量の10kWh蓄電池は
持ち運びも可能です!!
BCP対策は万全です。



LP ガス発電機+蓄電池
(20kVA) (10kWh)

江東区・TECレジデンス様で導入頂きました。

「Look Eye」VPN 見守りシステム “TATSUMI ONE+ 1”
環境センサー付き防犯カメラ VPN でいつでも見守っています。



※Wi-Fi ルーターがあれば、契約者はスマホでの確認ができます。

災害時の地域の緊急電源としても、ご活用頂けます。

まずは、お問合せ下さい。

目 次

■ 代表理事に聞く	・・・・・・・・・・ 4 頁
エネルギー設備の保安確保に向けて (JESA の今後の方向性)	
■ 令和元年度の主な事業活動	・・・・・・・・・・ 6 頁
製品認証、資格者、点検制度など保安体制を拡充 ～令和元年度の主な活動～	
■ 令和 2 年度事業計画の主な内容	・・・・・・・・・・ 9 頁



一般社団法人
日本エネルギー設備保安推進協会

代表理事に聞く

～エネルギー設備の保安確保に向けて～

■ 自家発電設備 点検基準の正しい啓蒙を！

・新型コロナウイルスの影響

——昨年末からの新型コロナウイルスの影響は、いかがでしたか。



○ 4月7日の緊急事態宣言前の3月頃から、お客様と事業者様との調整ではありましたが、消防設備点検・自家発電設備点検が延期、中止等の影響があった事は当協会員様から報告を頂きました。

他方、BCP対応型・発電設備更新工事等は、各所が協力され、対策を講じながら無事に納入完了まで漕ぎつけたとの報告も頂いてます。

誤解の無いようにお伝えしますが、新型コロナ対策で“いのち”を守る事が最優先は当然の事ですが、自家発電設備の設置、運用も災害・緊急時から守る、という観点から関係者が多大な調整と尽力により納品したという事だと思ってます。

——やはり、今後、ますます社会的に必要とされてくるわけですね。

○ はい。近年の異常気象によるエネルギー設備の分断された事例からも、まさに“いのち”を守る自家発電設備は、経済動向に関わらず計画的に設置されていくものと考えます。

従いまして、“いざ”という時の稼働の為に、自家発の点検基準をオーナー様やビルメンテナンス会社の方々に、さらに正しく理解頂く事が重要と考えます。そして、非常時の自家発の稼働が“いのち”を守る」という大前提を今一度、肝に銘じて頂けるよう、更なる啓蒙・推進活動に力を入れていきます。防火管理者・電気主任技術者・負荷試験事業者がコンプライアンスを守り、安全に点検実施が行われるよう努力します。

・JESAの今後の取組

——貴協会の使命は、ますます、重要になってきますね。

○ これまでにもまして、JESAでは総合点検時の「実負荷＋疑似負荷」による30%以上の負荷運転を推進・啓蒙してまいります。

そして、JESAの機関事業である

一、製品認証事業



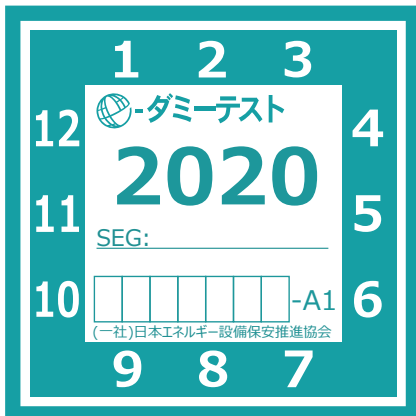
一、専門技術者の育成



代表理事に聞く

～エネルギー設備の保安確保に向けて～

一、負荷試験実施済証制度



を通しての啓蒙活動を引き続き、精力的に取り組んで参ります。

これからは“防災から減災へ”。“自分の命は自分で守る”という、災害に対する危機意識を確立させることにも取り組んでいきます。

——今後の展望を教えてください。

○ 新型コロナウイルスの拡大や近年の異常気象等に見る、過去の常識が通用しない時代となり、エネルギー分野においても“自給自足”という考え方と仕組みが、待った無しで必要に迫られていると感じています。

したがって、エネルギー設備の確保にも大きく力を入れていきたいと思えます。

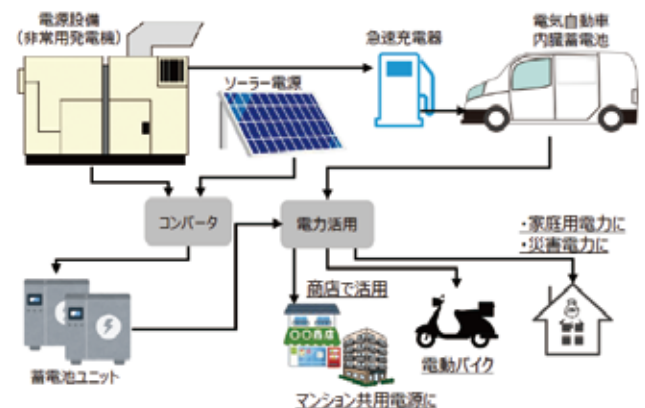


——具体的には？

○ BCP対策にもなりますが、小さなコミュニティで活用可能な分散型エネルギーの開発、提供、啓蒙を負荷装置メーカーの辰巳菱機をはじめとするJESA会員企業様と推進委員会のメンバーでもある大

学教授の所属大学との産学連携で取り組んでおります。まずは、負荷試験・吸収エネルギーの活用装置の投入。水素エネルギーの活用装置の投入。環境にやさしい小型ハイブリッド発電機の投入。安全、簡単な乾式負荷試験装置の共同開発と市場導入へ。

現在、実用段階が近づきつつあります。



——最後に一言お願いします。

○ JESAが目指す未来は、CO2ゼロの再生可能エネルギーによって、また分散型エネルギー設備の普及促進で、さらに消防用電源設備としてだけではなく、BCPにも対応できるエネルギー設備の導入を積極的に推進し、ニッポンで暮らす方々の“あんぜん・あんしん”を確立していく事です。

まだまだ、私の夢と希望は続きます。

令和元年度の主な活動（レポート）

令和元年度に実施した J E S A の主な活動について紹介します。

平成元年度は「総合点検時・30%負荷試験」の啓蒙活動に注力すると共に、分散型エネルギー社会の実現に向けて、再生可能エネルギーの研究開発もサポートしました。

その他、負荷試験の実施拡大の観点から非常用発電設備の保安体制の確立を目指す取り組みについても、乾式負荷試験装置の製品認証制度、負荷装置専門技術者制度、負荷試験実施済証の表示制度など諸制度の普及に取り組みました。また、そうした取り組みの社会的な広がりを目指して、事業者登録制度による良質な事業者の拡大に努めました。

■ 非常用発電設備の維持管理の適正化

J E S A では、非常用発電設備の適切な維持管理に不可欠な負荷試験の確実な実施に向けて、認証制度による負荷試験装置の安全性や信頼性の向上に取り組むと共に、試験に携わる技術者に対する資格制度、負荷試験事業者の相互連携による試験業務のさらなる向上を目指した事業者登録制度の整備などを行っています。これらを通じて総合的な非常用発電設備の点検整備の確実な実施の観点から信頼性の高い負荷試験の実施事業者の拡大に努めています。

新年度（令和2年度）は、負荷試験装置の更なる信頼性の確立に向けた定期点検制度を導入し、負荷試験装置の安全性、信頼性の向上に向けた取り組みを更に強化します。また、負荷試験事業者の技術の向上を通じた負荷試験業界のレベルアップを目指して、登録事業者の信頼性の向上に努めます。そうした取り組みを進めることを通じて、賛同する事業者が会員として入会していただくための取り組みも進めます。

■ 資格講習会

負荷装置専門技術者を養成するための資格講習会を、令和元年度は4回開催し、令和2年度においても定期的開催いたしました。

これまでの資格講習は累計で22回となり、資格の取得者は100人超になりました。資格取得者様方には、それぞれの職場でご活躍し、啓蒙推進をしていただいております。



負荷装置専門技術者の資格制度については、J E S A 会員企業や負荷試験の現場での活動などを通じて、負荷試験の安全性の確保や質の向上などに寄与できる資格制度として、社会的な認知も徐々に広がりをみせてきています。

令和2年度には、施設を管理する管理技術者にも資格取得の門戸を広げ、負荷試験に対する管理者側の理解を広げる一助とする取り組みも開始しました。専門知識を有する施設管理者の下で、発電設備の総合点検を実施する体制を整えることで、資格制度の周知のさらなる拡大により、負荷試験に対する一層の理解の広がりが期待されます。



令和元年度の主な活動（レポート）

■ 製品認証

乾式負荷試験装置の製品認証制度については、制度創設6年目を迎えて、負荷試験の安全性と質の向上を図る取り組みとしての評価が広がりを見せ、負荷試験装置を運用する負荷試験事業者等から認証製品を使用したいという相談事例も寄せられるようになってきています。

この製品認証制度は、乾式負荷試験装置の安全性と信頼性を確保する製造基準を定め、製造事業者からの申請に基づいて型式認証を行うもので、認証された乾式負荷試験装置を協会の登録工場で製造し、当該装置に認証マークを表示して出荷することで、試験事業者に安全性・信頼性の高い負荷試験装置を提供します。

また工場の登録については、認証基準を満たす負荷試験製品を製造できる設備や体制が整備されていることを確認して、登録工場として認定します。登録工場で製造され型式認証を受けた装置については認証マークを表示して出荷されます。認証マークの使用に当たっては、定期的な使用報告を求め、違反があれば失効等の必要な手続きをとることで、制度の信頼性を確保しています。

令和元年度は、前年度に引き続き、12回の認証委員会が開催され、11件の製品（型式）認証を実施、また、162枚の認証マークを発行しています。



■ 実施済証

発電設備の定期点検を実施した証と次回の総合点検時期をお知らせする意味で配布している「実施済証」については、制度を理解し協力を表明する会員事業者を通じて試験実施後に施設側への配布を行っています。

制度開始後5年目となる令和元年度には、70枚の実施済証を発行することができました。制度開始以来、令和元年度末までの発行枚数は250枚を超えており、発電設備の総合点検の確認証として、社会的に認知度の向上を目指した取り組みが求められているといえます。

令和2年度は、発電設備の安全・安心の証としての理解が広がることを期待して、よりわかりやすい表示の方法などについても検討を深めていくことにしています。

■ スマールコミュニティ BCP 施策

・“町会対応” 防災電源キットの開発を支援

JESAの会員企業は、地元自治体のBCP対策にも力を注いでいます。会員企業の(株)辰巳菱機（江東区東砂）では、環境にやさしい、LPガス発電機（5～20kVA）と10kWh蓄電池と1kWの太陽光システム（蓄電池セット）を組み合わせた電源装置「でんまる君」を開発。

地元で導入されています。問合せも多数寄せられています。



又、引き続き、JESAでは今後とも、会員事業者などを通じた公共施設などに対する、負荷試験付き総合点検のモデル的な実施協力等の機会を拡大して、発電設備の定期点検実施の理解促進に努めていきたいと考えています。

令和元年度の主な活動（レポート）

■ 新エネルギーに対する取り組み

・ ワールド・グリーン・チャレンジ ソーラーカー・ラリーへの協賛

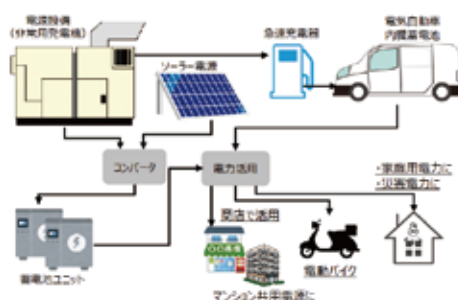
東京電機大学 枅川重男教授と学生の皆さんが令和元年8月7日～10日まで秋田県八郎潟で開催されたワールド・グリーン・チャレンジソーラーカー・ラリーのグリーンフリート部門で参戦しました。参戦車両は「バッカス」といいオールカーボンのボディに、燃料電池、バッテリー、ブラシレスモーターが搭載されています。見事完走。今年も参戦予定です。

JESAでは、この取組に賛同し、支援いたしました。



・ 電力貯蔵機能付き負荷試験装置の開発

発電設備の負荷試験時に、負荷試験装置を通して熱として排出されてしまう電力を、貯蔵して再利用する「電力貯蔵型負荷試験」の普及にも取り組んでいます。会員企業である(株)辰巳菱機の協力を得て電力回収機能付きの負荷試験装置を試作し、負荷試験の現場での取り組みを進める体制も整いました。今後は、実際に試験装置を使用して電力貯蔵を行い、その効果を検証しながら、「さらに環境に優しい負荷試験」として、普及を目指した取り組みを続けます。



■ 推進委員会 / ネパール支援

近藤代表理事が客員教授を務めているネパール工科大学（学生数約2,500人）に2016年12月にJESAとして風力発電システムを寄贈しています。

令和2年1月に桐原委員が視察の為同大学を訪問。現在も、同システムも活用しながら自然エネルギーの研究開発に尽力されており、電力供給を続けておられました。

今後、JESAと共にITを活用し自然エネルギーの研究を両者で積極的に進めていこうと確認することができました。



■ 第5回定時総会

・ 第5回定時総会を中止

JESAでは、5月22日（金）午後3時から、JESA事務局が入所する東京都江東区の辰巳ビルで、第5回定時総会を開催する予定でした。

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言発令中であつたため、会員の皆様の安全最優先にて、総会を中止といたしました。

当日はリモートで理事会を開催し事業報告・事業計画の承認頂き、後日、会員の皆様にご報告しました。

次年度は、皆様と共に盛大に第6回定時総会を開催できる事を願っています。

令和 2 年度事業計画の主な内容

令和 2 年度の事業計画の中から、重点的に取り組む主な活動について紹介します。

1. 負荷試験装置等に関する品質性能に係る認証

昨年度に引き続き、乾式負荷試験装置の「製品認証制度」を着実に運用して、乾式負荷試験装置の品質及び信頼性の確保に努め、認証取得メーカーと連携した J E S A 方式の負荷試験の実施拡大を目指します。



2. 負荷試験装置等に関する技術の指導及び専門技術者の養成

引き続き、負荷試験に携わる専門技術者を養成する「資格認定制度」を着実に運用して、令和 2 年度は、資格認定講習会の定期的な開催を計画・実施するとともに、受講希望者の申請状況に応じて随時開催も計画するなど、高度な技術を有する質の高い専門技術者の養成に努めます。

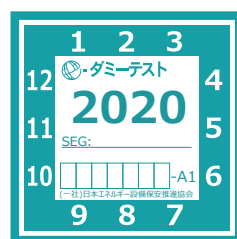
講習テキストについては、新たに高压分野を対象とした講習テキストを発行して講習内容の充実に務めるとともに、受講対象者を施設管理者等にも門戸を広げるなど、資格認定制度の広報・周知等の強化を図り受講者の確保に努めます。

3. 実施済証の表示推進と事業者登録について

非常用発電設備の点検・整備の適正な実施と普及を目指して、負荷試験が適正に実施されたことを分かりやすく示す「実施済証」の表示制度の普及を着実に推進します。

また、質の高い負荷試験を実施する試験事業者を登録する「登録負荷試験事業者」に向けた取り

組みを一步進め、昨年度から検討を開始した「負荷試験付き総合点検」を推進し、負荷試験を自らは実施しない点検事業者等に対する支援体制を具体化し、登録事業者（会員）の拡大を通じて、自家用発電設備の負荷試験付き総合点検の実施率の向上を目指します。さらに、負荷試験データを集約・分析して公表し、負荷試験技術の向上に努めます。



4. 負荷試験装置の定期点検制度

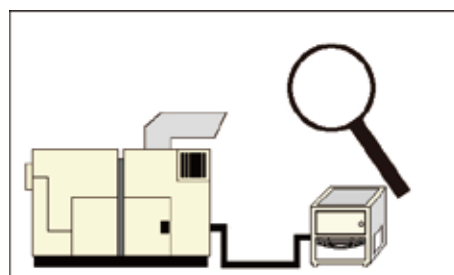
認証製品である負荷試験装置の安全な使用を確保する取り組みとして、負荷試験装置に対する定期点検制度の創設を図ります。点検基準に基づく適切な定期点検により整備された負荷試験装置には「点検済証」を表示して、安全・安心に使用できる負荷試験装置であることを分かりやすく表示します。

5. 負荷試験装置等に関する調査及び研究

昨年度に引き続き、負荷試験の実施状況のデータベースの構築に向けて取り組みを進めます。また、新エネルギー設備や付加機能付きの負荷試験装置のあり方等についての調査・研究を進めます。

6. 負荷試験装置等に関する規格、基準の作成及び普及

引き続き、負荷試験装置の安全確保に向けて、関連規程や指針等の策定・整備に注力します。



令和 2 年度事業計画の主な内容

7. 負荷試験装置等に関する内外関係機関等との交流及び協力

発電設備の維持管理等の保安体制の充実について、関係官庁・団体と協力して発電設備の保安確保の充実に向けた活動に取り組みます。



8. エネルギー設備の保守、点検に対する理解促進と普及に向けた取り組み

昨年度に引き続き、協会HP、各種メディアへの情報発信、協会主催のセミナー及び講習会等を通じて、「e-セフティテスト（30%負荷試験）」の普及・啓蒙活動を展開します。

また、協会事業活動についての理解促進を図るため、協会の普及／広報活動の充実を図ります。具体的には、協会HP等を活用した情報発信の充実を図るとともに、PR資料の作成や、適宜、研修会や講習会の開催を計画・実施するなど、情報発信の取り組みを強化します。



付録

JESA の事業活動

1. 負荷試験装置等に関する品質性能に係る製品の認証
2. 負荷試験装置等に関する技術の指導及び専門技術者の育成
3. 点検済み証の表示推進と負荷試験事業者の登録について
4. 負荷試験装置等に関する調査及び研究
5. 負荷試験装置等に関する規格、基準の作成及び普及
6. 負荷試験装置等に関する内外関係機関等との交流及び協力
7. 変電設備、自家発電設備等の負荷試験、耐電圧試験、各種継電器試験並びに保守、点検及び斡旋の理解促進と普及に向けた取り組み
8. 水素の貯蔵、風力・太陽光・リチウムイオンバッテリー等の新エネルギーを利用して発電した電力の貯蔵並びに貯蔵装置の保守、点検及び斡旋

■事務局便り

皆様にご愛顧いただきまして、無事、機関誌第5号の発刊と相成りました。会員企業様も全国50社に近づき、JESAの使命と責任を大きく感じています。令和2年・2020年。エネルギー設備の保安の確立へ、丁寧に、そして、迅速に情報の提供を土台に、推進・啓蒙活動に尽力してまいります。また、当協会HPでのコラムにもあるように、再生可能エネルギーをはじめ、様々なエネルギー事業が各地で展開されてきています。そういった取組みを受け、各企業様方と連携し、当協会も様々なエネルギー事業に取り組んでいきたいと思っております。

■編集後記

JESA機関誌第5号をお届けいたします。JESAの令和元年度は自家発電設備の保安確保に向けて、制度の更なる拡充と増加した会員企業の皆様と地道な努力をした1年となりました。JESAの活動も6年を経過して、令和2年度は、更なる事業活動の充実が求められます。本号では近藤代表理事のインタビュー記事を掲載し、JESAのこれらの活動の方向性などについての考え方を語って頂きました。また、最近のJESAの活動や新年度の計画なども取りまとめて紹介しています。

非常用発電設備を設置されている ビルオーナー様へ

負荷試験を安心価格で実施できます
まずはJESA登録を！！



携帯用負荷試験装置

L-3SV

- ・1人でも持ち運べ、負荷容量が24kW。
- ・サーバーラックに取付可能。
- ・100kVA以下の発電設備の
1/3 負荷試験に対応!!



●TATSUMI 事業所
●JESA 会員

省スペースな高圧装置

Uシリーズ

- ・EVで屋上まで運べます。
- ・発電装置の負荷試験が簡単になります。
- ・H-60Uなら2000kVAの発電設備の
1/3 負荷試験に対応!!



辰巳菱機は、自家発電設備の品質、性能の維持管理を確実なものとするため、日本エネルギー設備保安推進協会（JESA）と共に普及・啓蒙活動を推進。そして、新たなステージへ！「e-セフティテスト」。

あらゆるエネルギー設備の安全確認で、“暮らし・緊急時・災害時”の、エネルギー設備の稼働確保で、「ニッポンの“あんしん”」を守ります。

Supported by **JESA**
Japan Energy Safety Association

ICT-e-safety test
TATSUMI

〒136-0074 東京都江東区東砂 6-12-5
TEL: 03-3648-3174 FAX: 03-5635-7771
<http://ttmrk.co.jp/> 株式会社 辰巳菱機



ISO 9001:2015/ISO 14001:2015

ISO/IEC27001:2013(JIS Q 27001:2014)

本社、東京事業所、東京事業所分室、浦安工場について

本社、東京事業所、東京事業所分室について認証取得



一般社団法人

日本エネルギー設備保安推進協会

〒136-0074 東京都江東区東砂 7-16-12

TEL 03-5677-5644 FAX 03-5677-5646

<https://www.e-jesa.or.jp/>



JESA 機関誌第 5 号

発行日 2020 年 7 月 3 日

発行所 一般社団法人 日本エネルギー設備保安推進協会

編集者 事務局広報担当